

第6次総合計画 第3回市民アイディア会議 会議概要

1 会議名	第3回市民アイディア会議
2 日時	令和4年6月17日(金) 15時30分～17時30分
3 会場	市役所 第4委員会室
4 委員出席者 (順不同)	(市民アイディア会議)本間委員、上村委員、足立委員、水野委員、北村委員、西川委員、栗原委員、モーガン委員、佐川委員、岡村委員、松山委員
5 事務局出席者	事業戦略室長、事業戦略係長、 企画財政課 企画調整係長、 (庁内アイディア会議)鈴木委員、水野委員、小野沢委員、田中委員、阿部委員
協議事項等	
1 開会(事務局;事業戦略室長) 2 会長あいさつ(本間会長) 皆さんこんにちは。今回で第3回目となった。前回は大変盛り上がりすべてをまとめるのは難しかったが、今日である程度方向性を固め、7月には素案として提案することとなっている。それに向けて今回意見を出し尽くし、話し合っている方向性に持っていけると思うので、よろしくお願いします。 3 経過 (事務局) 5月25日にワークショップを開催した。内容については、かわら版として添付しているので、時間がある時にご覧いただきたい。 4 協議事項 (本間会長) 協議事項に入る前に、配布した資料の説明をする。 将来像や基本目標を検討するにあたり、まずはそれぞれの立場で考えてほしいこと、念頭に置いてほしいことをまとめた。 はじめに、飯山市のことだけではなく、世界全体でこれから時代がどう変化していくのかというのを考えてほしい。これからどういう時代になっていくのか、これから起こり得る未来について少しイメージしていただけたらと思う。その中で世界共通、日本国内すべての、飯山市だけではなくいろんな地域・国における共通の社会問題や課題は何か、何があるのかイメージしてほしい。たくさんあるが、人口減少、超高齢化、過疎化、食糧・水問題、資源問題、気候変動。デジタル技術がコロナ禍で加速してデジタル・トランスフォーメーションが進んだ。これからどんどん進んでいくのではないかとということと、都市部だけではなく、地方にも注目するようということで地方回帰。脱炭素なのか、カーボンニュートラルなのか、もしくは低炭素なのか。循環型社会、ダイバーシティ等々いろんなことがイメージできる。ご自身の立場でどのようなことをイメージするのか。それぞれ一番初めにイメージすることで違ってくると思うので、イメージしていただければと思う。 その上で、10年後に飯山市はどうなっているかイメージしてほしい。世界全体の変化もあるが、飯	

山市が 10 年後どうなっているか、どんな変化があるのか、ということをイメージしてもらえればと思う。

今回の会議の中では 10 年後になるが、飯山市はずっと続いていく。20 年後、30 年後、40 年後、100 年後と、まずは 10 年後でいいが、さらにその先というのもイメージしながら考えていただければと思う。

10 年後と漠然と言われても困るかと思い、一番下に 2022 年から 2034 年までの年表を入れている。イメージとして 10 年後をすぐイメージするのではなく、2 年ごとに考えると 10 年後はイメージしやすいと思う。20 年後も 30 年後も。その区切り、区切りで考えてもらってもいいかと思う。

市全体の人口がどうなっているか、市の中でさらに集落ごと地区ごとで、人口が、経済がどう変わっているのか。集落の活動や生活様式がどう変わっていくのか。その中で文化が、文化は広い意味で捉えて祭りとか含めてどう変わるのか。インフラは定期的に整備しないといけないが、人口減少によってどう変わるのか、といったことも考えてもらえればと思う。

会議の初めに人口減少について説明があったことを覚えていると思うが、人口減少はどうしようもない。どうしようもないことはないが、10 年後爆発的に増えることはなかなか難しいと思うので、減少したとしても、それを踏まえた上で持続可能な仕組みはどう構築していくべきなのか、どんな仕組みがあるのかを考えてもらえればと思う。

飯山市を、この場合は世界全体というより、飯山市を維持していくために必要なこと・必要な物は何だろうということ。必要なことや必要な物を維持していくための仕組みは、どのようなものをつくれればいいのかをイメージしてもらえればと思う。経済的なことや、個人で活動することではなく、複合的な調整関係を構築できるものであったり、地域住民がみんなで集まって何ができるのか、どんなことができるのか、それをどんな仕組み・グループ等を含めてどうつくっていけばいいのかを考えていただけたらと思う。

10 年後、20 年後、30 年後に、飯山市がどういったまちであってほしいかイメージしてほしい。数年前から消滅都市とか、どんどん村や地区が無くなっていくことは実際に起こっているもので、将来的にはもしかしたら「市」という大きな単位も減っていくかもしれない。でもそれを残すため、飯山市を残すためにどんなまちであってほしいかをイメージしてほしい。そのイメージを受けて今やるべきことは何か、10 年後どうありたいか、どうあってほしいかということに対して、これだけは絶対に必要だという核を持ってもらえればと思う。いきなり「これを考えてください、会議です」となるので難しいと思うが、これを念頭に置いてアイデア会議を進めていけたらと思う。よろしくお願いします。

それでは、将来都市像案と基本目標案について事務局から説明願う。

将来都市像・基本目標案について（資料1）

－ 資料に基づき事務局説明 －

（本間会長）

今の資料について質問等はないか。

なければ、今説明のあった内容を踏まえ、各委員から意見をいただきたい。資料を見て感じたこととか。

(事務局)

今回3案を出したが、この案のどれがいいということでもいいし、複数の案の切り取りでも、別案でもよい。今日はいろんな意見が出ると思うので、ホワイトボードに意見を整理しながら皆さんの意見を伺って、理解につなげていく。

(本間会長)

特に指名せずに、どんどん意見をもらおうと思っている。

(委員)

ターゲットはどこか。

(本間会長)

飯山市の世代ということか。

(委員)

案の中のターゲット。多分、案1は若い夫婦とか若者、案2は中年層やリタイア組の方達なのかと。

(本間会長)

そのターゲットも含めて一緒に考えていけたらと思うが、どうか。案2ではリタイアした方という印象もあるが、アウトドアに若い方もどんどん入ってきているので、ターゲットをどこにするかでこの案それぞれの基本目標も変わってくるかと思う。そのあたりも含めて一緒に考えていけたらと思う。

(委員)

前回からいろいろ一般市民から意見をもらっており、それを基に話していく。案としては案1に一番近く、共感を持つ。それが絶対に100%ではないが、案1寄りの考えを持っている。というのも、雪国とスキー文化がある飯山ならではの考え方だし、後半にある「日本一子育てしやすいまち」に反応している。友達から「保育園で英語の授業がほしい」という話があった。もう海外の方が入ってきて world wide な飯山になっているので、その文化により近い環境を子ども達に与えてあげたい、と。子ども達も、海外の子どもと一緒に保育園・小学校に通っているという文化になりつつある。僕達の時代からはステップが進んでいると思うので、それを馴染みやすくするために、英語の先生は身近にも沢山いらっしゃるから、英語(教育)を保育園からどうかという話があった。

「日本一子育てしやすいまち」にするのであれば、避けて通れないのが兵庫県明石市の話。私は最近 Facebook でその記事をシェアしたので、私の Facebook から見てもらえればわかりやすい。私は明石市長の発言が非常に興味深い。「お金の無い時こそ子どもにお金をかけるべきだ」という考え方で、市政が「授業料無料」「給食費無料」とか、子どもにとってとてもいい環境を整えることで、税収がかなり上がっている。何倍かに膨れ上がり、子どもにお金を使っているけどそれ以上の税収で(財政が)健全化して、兵庫県一位(となっている)。日本一を目標にするなら明石市が参考になると思

ったので、Facebook から YouTube のリンクを貼っているのでぜひ見ていただきたい。

また、ひとり親世代が住む所がないという話も聞く。子育てに力を入れるのであれば、収入がないために市営住宅に入れないひとり親のママが泣いている。現状そういった方がおられるので、そういう方へどうにかならないのか、という思いである。そういう方達を何とかサポートできる仕組みがほしいと思う。

また、市役所の場所と建物を更新してはどうか。近隣でも新設された所もあるし、老朽化もあるためどうか、という意見があった。

事業者同士、とても尖った方達が多いので、連携を強化し、面で飯山を表現してはどうか。これは他にもいろんなところでプロジェクトが動いていたりするし良い傾向だと思うので、さらに個々の力をもっと発揮できれば。カッコいい事業者が多いので、その力を引き出せるような連携がとれたらと思う。

(本間会長)

明石の件は、ちょうど最近ニュースにもなっていた。

(委員)

それでシェアした。国会で答弁して。

(本間会長)

「国がやらないからこっちでやる」と。

(委員)

「海外でスタンダードなことが日本ではできていない」と強く訴えていて、それをスタンダードにしようとして日本で率先して始めたのが明石市で、それがあったからなのか別の県では叩かれていた。さすが「マスゴミ」だと思った。

(委員)

明石市はどういった取組をしたのか。

(委員)

子育てに関して、中学校まで給食費は完全無料、児童手当の支給要件を一切廃止して、所得制限無しにして一律全員に支給するとか。

YouTube は 20 分程度の動画で、後半かなり白熱していて、目頭が熱くなる。国会で訴えている、とても熱い市長だと思って、思わずシェアした。子育てサポートは相当厚い。僕らが気づかない場所とかがあったりして。

(委員)

私も、子育て世代への手厚い支援は将来への投資だと思う。人口を増やす、子どもが増えるという

ことは生まれないとできないことだと思し、出産する女性としては出産して子育てが辛かったりすると「もういいや」「もうできない」「もう嫌だな」と思って次の出産にはつながらない。子育てしやすい環境を整えてすぐ子育てが楽しめれば、「もう一人産んでもいいかな」とか思えるようになると思うので、子育て世代への支援は必須だと思う。

明石市の話が出たが、長野県下だと宮田村や南箕輪村がすぐ子育て支援をして、実際人口が増えている。前回の資料にリンクを貼ったが、南箕輪村の定住促進サイトのところに統計が載っており、人口が実際に増えている。これを見た時に「すごい」と思った。やっぱり子育て支援が手厚く、助けてくれると思うと移住してきたり、出て行ってしまう人が減ると思うので、そこはやっていくべきところだと思う。

時代背景で、一昔前はお母さんが仮に仕事をしていても、おじいちゃん・おばあちゃんに預けて仕事に出るとか、しばらく仕事を休むとかいう時代があった。今は、働きながら子育てすることがあたり前の時代になっていると思うし、おじいちゃん・おばあちゃん世代も元気で働いていたり、第二の人生を楽しんでいる方達がたくさんいる。そのため、子育てするママ達はおじいちゃん・おばあちゃん世代を頼れない。もちろん、近くにおじいちゃん・おばあちゃんがない家もたくさんある。核家族化が進んでどこにも頼れない方が多いため、どうしても(困り事を)抱え込んでしまう。そこを地域や行政で何とか支えて、働きながら子育てができる、親にも支援があるということをPRすればいいのではないかなと思う。「日本一子育てしやすい」というワードはうれしいし、いいなと思う。パッと見た時にすぐ思ったのでぜひ入れてほしいし、そうなるといいなと思った。

案が3つあるが、どれも大事でどれか一つに絞るのが無理だなと思ったし、3つの案を一つにするのも無理だと思った。3つくらいあってもいいのかな。そこは資料もらった時に読んで思った。

(事務局)

絞り込むが、一方で今は将来像の話をしながらか基本目標にもつながる話でもあるので、大事であれば、将来像までいかなくても基本目標の設定も考えられるので、合わせてご検討いただきたい。

(委員)

私も案1、2、3どれもいいなと思って、見ているとわくわくするようなワードがたくさんあり、3つともいいと思った。前回の会議で皆さんから出た意見が上手くまとまっていたので、すごくきれいに吸い上げてもらったというのが第一印象。

会長から最初に話があった10年後に向けての政策もそうだが、「20年後、30年後、40年後に飯山市があり続けるために何を大事にしていくのか核を持って」というところの話で考えるといろんな施策がこれから必要だとは思いますが、それをするために何を守るのか？というところで統一しているのが「自然と人を大事にしたい」ということ。「これはいいとこだよ・守りたいよね・伸ばしたいよね」というイメージは、自然と人が統一してあるのかなと思った。後はどのように表現するのか、ターゲットをどこにするのかはこれからの話だと思うが、今の飯山市を続けるためには、この2つのキーワードは外せないのではないかとぼんやりと思った。

(本間会長)

なかなかまとめるのが難しいとは思いますが、どんどん意見を出してもらい、「ここにこれを入れたらいいのではないか？」とか、先ほど言われた第4案とか、自由にアイデアを出していけたらと思う。

(委員)

前の二人の方と同じだが、この1案、2案、3案どれもよく、ターゲットという話もあったが、ターゲットは赤ちゃんからお年寄りまでの市民。それを考えた時にすごく上手い具合に全部はまっていると思い、「子育て日本一」と言ってしまうと覚悟が決まるので、やらなければならない。これは絶対に外せないと思う。これがないと10年後も20年後も未来がないと思うので、これは絶対に入った方がいいと思う。

2案について。最近はSDGsとかあるが、「持続可能な美しい飯山」、美しいところが非常に重要であり、100年後も美しい、ずっと続くものがあると暮らしている市民にとっても誇りになるし、美しいと観光資源としての評価も高くなる。暮らしたい所としての評価もあり、収入・経済的にもアップするといういいことがあるので、ここは外せない。

第3案は「一人ひとり」と入っており、どの年代もどの立場の人でも自分達が楽しめるような雰囲気が非常にいいなと思った。「風通しがよい」というのが今っぽいというか、誰にとってもそれはハッピーなことだと思う。しかも、洗練された田舎という「負の田舎」ではなくて「プラスの田舎」というところがすごくいいなと思った。

正直、この案を1つにするよりは、3つの方がわかりやすいのではないかなと思う。

(委員)

将来都市像は1つにするのか。絞らないといけないのがポイントになるのと、ターゲットの話があったが、私は全市民だと思っていたので、第3案の「一人ひとりが」が自分の中でポイントだった。

最初に子育ての話があった時、もちろんすごく大事でわかるが、将来都市像になった時に個人的には未婚で子どもを産む予定はなく、産むも産まないも選択できたらいいなと思った。個人の意見だが、これが掲げられていると、産まない選択肢をした人にとっては「どうでもいいかな」と思ってしまう。選べる未来があった方が、今の多様化しているこれからの世の中にも対応できるのではないかな。今回最初に本間会長からの資料があったので、きちんと伝えようと思った。

基本目標とかに「日本一子育てしやすいまち」と謳うのはいいと思うが、それが1つになった時にこれが出ていると、個人的には子どもが産めないと「子育ては関係ないな」と思ってしまうと思う。

(本間会長)

今の意見は大事だと思う。「選択できる」というのが大事だと思うので、いい意見をいただいた。

(委員)

自分には子どもがいて保健師として働いているが、子どもがほしくてもできない方もいるし、産まない選択をする方もいるので、「選択できる」というのはいい。

(本間会長)

「子育てしやすいまち」というのもあり、そうでない方も一緒にポイントと言われた「一人ひとり」が活きていくような案が出ればいいと思う。

(委員)

前回、第3案まで皆さんで絞っていいものが出てきて、ここで1つにするように言われたら、私は「第3案をお願いします。」と言うと思う。ここでこれだけ絞ってできた案なので、提案として、第4案を第3案までのもので再度つくる。いいところを全部入れて、短くする必要もないと思う。

クリエイティブなものをつくる。第4案を第3案までのものをまとめてつくるのもいいかと思った。

(委員)

形として、大きいスローガンとその下にこの3案があるのはどうか。先ほど委員がまとめてくれたみたいに、大元は何かと言ったら「自然」と「人」だから、それを基にコンパクトなインパクトのあるタイトルの下に、「それを守るために私達はこれを掲げます！」とか、3つを絞るみたいなのはどうか。

(委員)

そういう話になるのであれば、バーンと出るメインのところは皆さんの熱い思いとは違う視点になってしまうかもしれないが、マーケティング的視点からすると「他と同じでないものもいい」と思う。ありきたり、どこのまちでもあるものではないここだからそのキーワードが入ったものがないのではないのか。この中で言うと、第2案の八つの季節、はっせつき(八節季)と読むのか、そういう造語をつつという視点もありなのかなと思う。

(事務局)

八節季は、前回の意見の中で、それぞれの季節の間にも節目があり、春と夏の間にも春とも夏とも言えない季節の節目がある、ということも含めて四季だけではっきりしていないという意見を元に、案に取り入れたという経緯がある。

(本間会長)

なかなか造語をつくるのは難しいが、パッと思いついたものがあれば。この流れで行くと、第4案をつくるのか。

みなさんの思いがこの第1案、第2案、第3案すべてに詰まっているので、どれも落としがたい、捨てがたいということでこれを包括的に表せる大きな目標としてキーワードを挙げつつ、その下に細かいテーマ的なものを組み合わせていくというはどうか。

(事務局)

将来都市像というのは第4案という考え方、その下の基本目標、このつくりとすれば、基本目標のところに第1案から第3案を配置するかたちにとすると整ってくるのかと思う。

(本間会長)

副題をつけるというより第4案を将来都市像にして、副題になりそうだったところを基本目標とし、細かい裏のページのところ、テーマでそれぞれ挙げているが、このようなかたちで落とし込んでいければと思う。

(委員)

今回初参加のため、前回までの流れがわからず失礼なことを言ったら申し訳ない。今やっていることは、結果を出さないことなのか。例えば、10 年後に人口を増やすと言ったら、本当に増やすやり方をするのかどうか。そこを本気でやるかどうかで、やり方も変わってくると思う。もしそうするのであれば今の目標がすごく大事だし、どうやっていくかの方がとても重要かと思う。そこも絡めながらやっていかなければならない。

(事務局)

将来都市像というのは、誰が見てもこのような飯山市になっていくというイメージがあり、その下の基本目標は将来都市像に向けて取り組んでいくための目標というイメージ。基本目標の下に、基本目標を達成するための様々な事業がくっついてくる形なので、将来像ではなくて、その下の基本目標に向けて事業を組む感じである。当然ながら、将来像の実現に向けて真剣にやっていく。

(委員)

定期的に、目標に対しての事業の振り返りはしているのか。

(事務局)

している。詳しくは、目標に対して施策を組むが、それは基本目標と言って、将来像では今から 10 年後を見据えてつくるが、前期計画と後期計画と5年ずつの計画をつくる。まずは将来像に向けて5 年間の基本計画をつくり、見直して後期基本計画をつくる。その 10 年間の将来像や基本目標は変わらない。

(本間会長)

第1回の時に配付された資料の中に、基本計画の見直し年度の計画を含めて示されている。これまでの計画の中でどの事業が紐づいていたかまとめた資料もあったので、この目標に対しての具体的な事業・方法としてはこれだというのが確認できる。ただ、それだけで足りないというのがきつとあると思うので、そこに対してこうしたらよいと言うのをこのアイディア会議で提案しながら、という感じかと思う。

ここで決めるとなると、案を出した方がいいのか。

(事務局)

今後のスケジュール的なことを言うと、ここでぼんやりとしながらも、将来都市像が今日の会議で見えてきたらありがたいと思う。今いろいろ意見をもらっているので、しっかりとキーワードを捉えていき

ながら第4案、将来都市像が見えてくるといいなと思う。

それぞれ第1案、第2案、第3案が引っ張るような形で来たが、基本目標的な部分で位置づけられるとそれが将来都市像にもなり、基本目標にもなっていくという考え方。そこから将来 10 年後にどういうまちが生まれてくるか、逆に追っていくとそういうことになってしまう。今の話を聞いて、第1案、第2案、第3案は皆さんの総意だと思う。そこから将来都市像というのはどういうものか、将来都市像を生み出してもらってもいいのかなと思う。

(委員)

さっきの大枠の案はいいと思う。そこからどう落とし込んでいくかのアイデアがないと、絵に描いた餅、よくある話になってしまう。それではきれいごと。そこで実際どうするかがないと、形にならないのではと心配になった。このベースはすごく大事だと思う。

(本間会長)

基本目標に紐づけた後からの作業にはなと思うが、どういうことを具体的にやっていくかを深堀りされていくかと思う。

(委員)

委員が言うように、インパクトのあるタイトルはすごくいいと思う。「飯山らしい」とは何だろうか。「雪」は切っても切り離せない。

(本間会長)

八節季(はっせつき)はいい。

(委員)

もう少しニュアンスが、同じ意味でも違う表現があるといいかな。少し年配感がある。

(委員)

今話し合っている年齢層があまり高くないから、ある程度同じ年齢層で話していればその人達を加えることしかできないと思う。お年寄りも喜んでくれて 10 代の子ども達も楽しんでもくれたとしても、そのへんの意見を出せるわけではないと思う。だから、今自分達が置かれているシチュエーションでどうかというと、子育ての話もそうだし、子どもではなくて自分がどうやったら楽しめるのか、というところでアイデアを出していった方が尖がって面白いのではないかと思う。多分、年齢層的には。無理して「リタイヤした後に」的なことを考えても、きっと無理。

(本間会長)

せっかく近い世代で皆さん集まってもらっているの。ちなみに、八節季は二十四節季をもじって私が書いた。

(委員)

今の話を聞いていて、そもそもの全体像としてどうかなと思うのが、今回これを策定するにあたり呼ばれているのが全員 30 代・40 代で、当然そういった世代の考え中心になってしまうと思うが、これはあくまで全市民を対象に考えるべきではあるが、それをある程度この世代で考えたということで、そちらよりの内容になってもいいということを市側が思ってこの世代だけを集めているのかどうか。

もう一つ、「日本一」とかインパクトのある言葉。誰が見ても「そうだよね」という感じのきれいな言葉を並べても、記憶にも目にも残らない。少しインパクトのあることでも「日本一」とかある程度覚悟が感じられるようなワードを入れていった方が、実際その先の細かいことを考える時もキーワードになってくるだろうと思う。

この前の感想にも書いたが、きれいな言葉を並べ過ぎた。そんなきれいな言葉でまとめる必要はないと思った。他の市町村の住民も「おっ！」と思うような、目に留まって「これはどういうことなのだろう？」と考えるようなインパクトのあるものができた方が、その後でやりやすいと思った。

(事務局)

最初の質問について。30 代・40 代の皆さんが、これからの 10 年間は飯山市を引っ張って行ってもらえる人達だということ。その皆さんが責任を持ってという訳ではないが、飯山のことを考えて計画づくりをしていかないといけないという中でこの世代の皆さんに出て来てもらっている。そのため、この世代の皆さんが全体をすべて考えるということではなく、今置かれている皆さんが考え、計画としてつくれるものをつくっていきたいということで、この世代が集まっている。

委員が言われたように、この世代の人達が選ばれているということは、この世代の人達に考えてほしいという思いで集まってもらっているので、そのへんは遠慮せずやっていただきたい。

(委員)

そうは言っても言葉を選びながら。

(上村副会長)

健康について触れなくていいのか。私達は病院の環境の方は遠いが、健康ということには、将来都市像に「健康に生きがいを持って」というワード・目標がある。

(委員)

前回も病院関係についての話が結構出ていたので、子育て以外にも「誰もが生き生きと暮らせる」とか「一人ひとりが」ということも。私は福祉関係の仕事をしているので、言いたいことを言って、結構組み込まれているのかなと思っている。

(上村副会長)

病院についてとかは、それくらい会話になる。あと、産婦人科とかはママさんがいるので、深い談義ができると思うが。

(委員)

介護の話とか、そこまで具体的な話を目標に入れるのかどうか。それはもう一つ下。

(事務局)

基本目標で出していただいている下のところに、いろいろな施策や重点施策とかが貼り付いてくるようになっている。大きな基本目標をつくってもらう中で、またその下にそうするにはどうしていくかはまた別の機会に考えていくことになると思う。ここでは将来都市像と基本目標を十分議論してもらい、生まれてきたらいいと思う。広く大きく考える中で、将来都市像と基本目標をつくっていければと思う。

(委員)

資料1の裏に、今までの飯山市の総合計画を参考で載せている。今までの中で私の中に一番入ったのが第4次。わかりやすいし、「おらもやる」とか飯山らしさもあっていいなと思う。方言が入ってもいいのか。それだと外の人達がわかりにくくなるか。

(事務局)

飯山の計画なので。

(上村副会長)

将来都市像の「都市」に違和感がある。

都市をめざしているのか。「都(みやこ)」という字に違和感があるのは私だけか。

(委員)

若者代表は飯山のどこに魅力があるのか。

(委員)

自然。私は四季がはっきりしているところが好き。冬に雪が大量に降ってとてもしんどいが、それが嫌いにならない理由は春があるから。春が来るたびに心が満たされるので、飯山で生きていこうと思う。それに新幹線があるので、東京とかの価値観にすぐ触れられる。

(委員)

新幹線の駅があるのは大きいし、なかなかない。東京に行くにしてもすぐに行ける。

(委員)

なので、都会に住もうとは絶対に思わない。

(委員)

飯山はこの辺のスキーの中心的な感じで、野沢も木島も志賀高原も行きやすく、山を越えれば新

湯に行けるし、そう思うと飯山もサテライトというか中心、外れ、になり得るから、そう目線で進めるのも面白いと思う。

今は雪の話ばかりだったが、グリーンシーズンも今は熱い。自転車も熱いし。委員はどういったことを？

(委員)

個人的な話をする、例えば子育ての話ならもっとぶっ飛んだ方がよくて、10年後どうなっているかとなると、きっと子ども達の学校にも外国人の子がいて、会社にも外国人の上司がいて、公用語が英語で…というのが長野あたりからだんだん入ってくるとか。そうすると、子どもにも英語を勉強させたいと思い始めている親世代が多く、インターナショナルスクールに通わせたいが高くて通わせられず、近くにあるのは軽井沢だからそこまで行けない…となってくる。多分将来子ども達にそういう勉強をさせたい、学習的にもこれまでの日本と違う学習ができる所があれば行かせたいと思っている人達も結構いると、個人的には思っている。そういうことが飯山でできれば飯山に移住して来る、親世代が、子育て世代が飯山に移住して来る一つの理由にはなるかなと思う。

オーストラリアのどこかのまちと姉妹提携していると思うが、例えばそこに飯山市の施設があって小学生を毎年100人送るとすると、小学生も行ってみたいと思う。

あと、教育のシステムが公立は難しい。ある学区に通うなら、そこに引っ越して来ないといけないというハードルがある。それが無理なら学校ではないような施設があり、学校以外の時間でそこに住んでいなくても通えるような、飯山市がやっている塾的なものがあるとか。そしたら中野や小布施の人も来られるし、来ている中でそれがいいなと思って飯山市にも私立的な学校ができたとして飯山市でサポートするなら、そこに住んでなくても通学できる。教育に関しては、そういうことができてくるのではないかと感じている。

ただ、子育て世代のことなので、若い人や子育てではなくてここに魅力を感じている人達が、どこに魅力を感じてどう伸ばしていくのかというのは全然違う考えでやっていかないとけない。(将来都市像を)結構ぶっ飛んだことにしておけばひっかかると思う。ドラえものの「どこでもドア」みたいな感じで新幹線があり、都会で1・2時間パーティーして帰って来たら全然違う世界というのも面白いのではないかなと思う。そこを上手くやれば、この世代の話でおいちゃん・おばあちゃん関係ない話になってしまうが、それくらい尖がっている方が自分達はやっていて面白いのではないかな。

(本間会長)

今の学校の話は具体的な施策の話にもなってくると思うが、こういう姿がいいなと思うところから未来像が出てくると思う。「飯山はどこでもドア」とか。

(委員)

例えば、2時間で全然違う世界に着くし。駅には自転車が置いてあって、そこから出かけてみるとか。

(本間会長)

国内の移動もだが、インターナショナルスクールで海外交流もとなれば空港は長野・松本空港くらいで、飯山から直接海外にはないが、飯山を窓口として海外へどんどんつながっていける「どこでもドア」にもなり得るといいなと思う。そういった発想をしていけるといいと思う。

(委員)

今の話とつながっているが、私は移住者で、長野県中いろんな所をまわって白馬とかも行ったが、飯山がどう考えても一番いい。飯山はほぼ完璧に近い状態だと思っていて、調整でワールドクラス・世界一になると思っている。日本一ではなくて世界一でいいのではないかとと思っている。空港はなくても新幹線があるので、成田・羽田からすぐである。世界のハブ、ここを拠点にスキー場にも行けるし、飯山らしい所も好きで私は来た。

あと、とても美しいので、ここは守っていかないといけないと思った。

(委員)

具体的にどこが世界一だと思うか。

(委員)

全部ではないか。

(上村副会長)

交通の不便とか感じないか。

(委員)

多分、おじいちゃん・おばあちゃんになって運転できなくなったら「ここヤバいな」と思うかもしれないが、運転できるうちはまず不便はない。買い物も隣のまちに行けばいいし、別にこの市になくていい。景観は(会議室の窓から)見えているとおりで、他に開かれた景観はない。今守らないと、10年後にはもう手遅れになってしまう。

あと、観光で稼ぎきれないことが、収入アップにつながっていない。そこがアップすれば、ワールドクラスの洗練された田舎の感じになると思う。

(委員)

若者がガッチリ稼げるサポートを飯山ができるのであれば、若者の移住は結構簡単だと思う。スキーができて仕事もあって稼げて、1年間ずっと仕事があるわけではないかもしれないが、例えば季節によって仕事を変える、自分でやったり他の人の手伝いをしたりして食べてはいけると思うので、そこもしっかりサポートすればいいと思う。

あまり遊びが好きではない人はひっかからないかもしれないが、今eバイクという電動のバイクがある。カナダやニュージーランドもそうだが、街から自転車に乗れるフィールドがすごく近かったりするの、いい所もいっぱいある。昔の斑尾も多いが、牛を引いて歩いていた赤道とか今は全然使っていな

い道がたくさんあり、地元の人が整備してくれている人が多く、「自転車で乗っていいよ」と言ってくれる。難しいところもあるが。

例えば今の信越トレイルもそうだが、信越トレイルはすごいブランドでいいと思うが、将来的には間口を大きく広げていかないといけないと思っている。最初は馬も乗れるような形にしたかったが無理だったという話は聞いた。もう少しできれば歩く道と自転車の道ができると、そこで需要は歩く人だけではなく自転車が好きな人まで広がるので、需要は二倍になって観光に寄与する可能性が出てくる。そう考えると E バイクは、里山で遊ぶにはとてもいいツールだと思うので、飯山市のバックアップがあって整備できるとすごく化けると思う。

(委員)

飯山駅から斑尾高原まで行けるか。

(委員)

行ける。斑尾や温泉全部のぼれる。直登で。自転車は高いが、他のお金はかからない。

(委員)

まず、飯山市民の我々がまず体験しないといけない。

(委員)

1人1台 E バイクを買ってもらうとか。

(委員)

新規移住者にはいいバイクをプレゼント、とか。

(委員)

野沢はゴンドラがある。斑尾はお金が無いのでゴンドラをかけられない。そういう意味では、お金をかけずに遊びを増やせる。

(委員)

カナダとかにはサイクルロード等の専用道があるのか。

(委員)

ある。自転車で走れるシングルトラックとか。車道とは別で、山の中に。

(委員)

上手く今の話を踏まえて、トータルして言うと自信を持っていいと思う。飯山の持っているものは世界レベルで、我々はいいいものを持っている、間違いない。ではどこをめざすのか？というのはある。全部を網羅しようとするとかばやけがちなので、フォーカスする方が尖ると思う。選ぶとしたら何なのか、皆

さんの意見を聞きたい。観光、環境、子育て、人の暮らし、自然、その出てきている私達のキーワードの中で何が一番なのか。

(委員)

素案だが、皆さんの話を聞いていた内容と、1から3案を少しずつ抜いてつくってみた。少し長いし、切れが悪いので案だが、『八つの美しい季節のあるクリエイティブな里山で 一人ひとりが夢をかなえる いいやま』というのを考えた。今の話で英語を保育園から勉強してとか、world wide に活躍するという夢があったり、若者がこういう仕事をして飯山で暮らしたい夢があったり、いろんな夢があると思うが、それも一人ひとり、子どもから大人まで自分がやりたいことをかなえる飯山で。前回のワークショップで出た「クリエイティブな里山」というワードが、私の中で強く印象に残っている。里山というのは人の手が入った自然だということを教えてもらい、確かにそうだなと思った。自然がきれいで少し行けば山や川もあるし、海もあるし。「クリエイティブな里山」というのが私達らしくもあるし、印象的だったのでいいなと思った。あと、八つの季節があるということも入れたいと思い、全部入れ込んでみた。

(本間会長)

決めるだけ決めたいが、時間が意外と経過しているのではどうか。

(委員)

内容はそこからの落とし込みだから、きちんと全部を網羅しないといけないというわけではないと思う。ぼんやりで大丈夫。

(本間会長)

これまで皆さんが話した中で、「子ども」等のいろんなキーワードが出てきた。子どもも若者も小中高、20代・30代の若い世代で手厚い施策があり、人が集まってくると他の高齢の世代にとってもいい影響が出てくると思う。みなさんの世代の中で必要なもの、自分達の立場でこれはあった方がいいと思うものが入り込んでくるといい循環が生まれてくると思うので、高齢者への配慮も大事だとは思いますが、まったく入っていないわけではないという話ではできると思う。

今のEバイクの話もそうだが、前回の時にスキーの話も出た。せっかく雪山があるのにスキーのレンタルがなく、ちょっとした体験ができないとか。eバイクは地元の人でやっている人は少ないのか。体験ができるとか、自然と一緒に遊べるとかが入ってくると楽しい。いろんな体験・経験が飯山でできて、飯山で定住してもらうのが一番の目的ではあるものの、無理矢理とどめたいわけではないので、そこから羽ばたいてもらい、飯山のよさを伝えてもらって帰って来るとか。または、他の地域から「飯山はいいと聞いたから寄ってみようか」というのもあると思うので、そういう出るのも入るのもウエルカムみたいな感じで自由さがあるというのが表現できたらいいのかと思った。いろんな話を聞いていて。

(各委員)

「若者のまち いいやま」とか揉めそうかな。

みんな若者だ、ということで。

「飯山に住めばみんな若者」とか。

若返る。桃源郷。

若返りの里。

(委員)

外から来る人が定住するきっかけに、いろんな季節を見てもらいたいと思わないか。夏だけで決めてほしくない。冬の厳しさも楽しさも知った上で、「もう最高！」と思ってほしい。どの季節も来てほしいとなると、アクティビティだけみても夏は自転車、冬はスキー、ハングライダーやカヤックもあるし、世界に誇れる。

ただ、自分達もほとんどやったことはない。ハングライダーくらい。20代の頃、ハングライダーの着地点に単身で行って「飛びたい」と言ったら、「〇日の日曜日、〇時に来て」と言われて行き、ひと回りもふた回りも大きいタンデムのハングライダーで飛んだ。もう感動だった。そういうのを体験できたからすごくいいと言えるが、確かに市民の人が体験できるようなプログラムがあったらもっといい。

(委員)

2日前から、小学生がカヌーに乗る体験が始まっている。あれはすごくいい。

(委員)

北竜湖のカヤッククラブが始まったが、あれはいい。チャリクラブ、サイクリングクラブを立ち上げたらどうか。二人で連携したら、外から来た時にいつでもカヌーだとか選択できる。

(委員)

身近なところに異次元なものがたくさんあれば、新幹線もそうだが、「どこでもドア」に似た身近な異次元がいっぱいある飯山とか。

(委員)

農業目線で勝手に始めたが、「里山クリエイティブ」という意味で、自分で管理する田んぼにアート看板を設置している。そういったものもおしゃれスポットみたいな感じで、農道にポツンと置く。オブジェとかは、「大地の芸術祭」が私のテーマであったが、そういうアートが所々あるのもアートの感性があっていいと思う。そうした底上げではないが、何も無い農道だが何か一つポツンとあるだけでアクセントになったりというのは、農業目線からもやったりするのでいいかなと思う。

飯山はエリアが広いので茶屋池の湖畔にいきなり何かポツンとあって、現代版のスタンプラリーと観光が合致すれば面白いのではないかな。

(本間会長)

今のアイデアとかは、基本計画は組み直しになると思うが、基本計画の中で具体的な活動等で提案していけそう。街中全体、「大地の芸術祭」のようなことをスポーツ絡めてとか、それを子育てや環

境、生活環境に紐づけるとか、全部にできるので。具体的な案はどんどん出てくるが…。

(事務局)

先ほど委員が言われた農業のこととか、商工会議所選出の委員の方もいるが、経済活動の面から意見をいただきたい。先生の資料にある「10 年後に飯山市はどうなっているか」を踏まえて、農業や地域経済活性化の知見で意見をいただきたい。

(上村副会長)

来年、飯山駅前にホテル建設が予定されているが、このホテル建設を待って店を開こうとしている方もいる。数年前にホテルが建つという計画があって無くなり、諦めた飲食店も何店舗かあったが、間違いなくここ数年でホテルが建つということになって、駅前になるが賑やかになるなどと思っている。商工会議所としても賑わいの一つができるのではないかとと思っている。ホテル起点の話だが、観光業の展開も考えているようだ。

あまり農工業の立場で言えることはないが、今日まで関わらせてもらっている中で、この会議に挑む前からまさに「人」だな、何よりも「人」だなと思っている。「子は宝」きれいな言葉になってしまうが、本当に人間が紡いでいくもの。人間の究極の生まれてきている目的は子孫繁栄だということを教育されてきた世代だが、それはいろんな事情により多様な世界が展開されている。何よりも、子ども達が大人になった時にはゆくゆく、飯山市に帰って来てもらいたい。自分の子どもには飯山市に帰って来てもらいたい。そういう究極から生まれている。そんなまちづくり、人間づくりができたらと思って、最近意識して活動・行動している。

私も委員も「自然豊か」という言葉に、あまりピンとこない。皆さんが発言していることには発見だらけで、この地域は素晴らしいと。この前から言っているが、この2年で飯山市の魅力に取りつかれている。自然だけではなく、北竜湖や千曲川に携わる中ですごく素晴らしいまちだと感じている。

委員からも発言があったが、「ぶっ飛んだまちづくり」とか「ぶっ飛んだ」って何かいい。すごくいいキーワードだと思う。

(委員)

経済というところで思ったが、人口が30 年後に半減するというデータが出ていたと思う。それはつまり、お金を稼ぐ生産年齢人口がさらに減るということ。この規模の市を機能させていくためには、多分1人あたり1千万円くらい稼がないといけないと思っている。少数精鋭で稼げるようなまちにならないと、まずいのではないかと、機能していかないのではないかと。「少数精鋭でたくさん稼ぐ」をめざすのがあるのかなと思った。

(委員)

前回私も話したが、観光的な話から言うと斑尾で事業をしているが、外国やいろんな人から投資を入れないと発展しないので、それをどんどん入れていく状況をつくっていききたいというのはある。ただ弊害もあり、土地の売買は誰にでもできるので、まずいところを買われると後々危ない。それに対しての条例が飯山にはないと思うので、買われる可能性はある。水が出てきているところもそうなので、早

目に(法整備を)したほうがいい。

また、税金の関係で言うと、短期で冬とかに来ていた外国人は3か月くらいしかいないので、帰国後に支払いの請求書がくる。(請求書が届くのが)遅すぎて、みんな払いたくても払えない。それが事業者のところに来てしまうので、どうしようもないという話になっている。即日払えるようにしてくれればみんな払ってくれるので、面倒なことがなくなるかなと思う。

お金が入ってきて建物が建ったりしているが、地元建設会社の仕事になったりもするかもしれないし、プラスアルファでガスや灯油、地元の業者にも(仕事が)くると思う。その上で、米や食材をどこから仕入れるとかがでてくるので、観光に関しては観光業をやってくれる人をどんどん増やしていけば、ゆくゆくは市の税収にまわっていくと思う。整理もしつつ、そこを入れていくのが重要だと思う。

若い人達でもやりたい人はいると思うので、事業をやりたい人達がやれる状況を、うまくやれる状況をつくってあげるのもいいかと思う。地元民ならそこで仕事生まれるし、資本とか入ってくるのであれば人口が増えてくるわけで、少なからずそういう形で先に進むのではないかな。斑尾は実際飲食店が足りないの、例えば飲食店やれる人が増えてどこかの建物を借りてやるにしても、それで仕事生まれたり、宿は大体リタイヤ組のお年寄りで飲食店が足りないの、冬だけでも飲食店をガンガンやってくれば結構いい稼ぎになるのではないかなと思う。

(委員)

私も経済的なところで、観光について意見がある。私が移住を決めた大きなポイントは、観光のポテンシャルがかなり高いということ。それは、自分もここに来ればそれを生業として生活していくイメージがつくれたからというのがある。観光の一番のここのポイントは、委員が発言したように、海外からの注目度が、みんなが思っているよりはるかに高いこと。みんなの方がかなり沈黙していると思う。そうすると我々の準備ができていないので、入ってくる経済の輸入の力を上手く捉えられずに流されてしまう可能性がある。我々のところにお金が入ってこない仕組みになってしまうかもしれない。その仕組みは、行政の方が中心になって考えて阻止していただかないといけないと思っている。幸いにもここが一番ではなく、ニセコがあって白馬があるので、どういう流れでどういう輸入の仕方をして結果どうなっているか勉強することはできる。そこをもっと見ながら、我々ができることをこの10年の中で準備していった方が、10年の間でどう変化するかは誰にも予想できないが、少なくともこの3年、5年ぐらいで大きな変化が訪れるのではないかなと思う。経済面では、そういったところがポイントになると思う。

(委員)

10年後、20年後の飯山をどういう形にしたいかのイメージ図でいくと、先ほど委員が発言した「クリエイティブな里山」に言葉としてたどり着くのかなあと思う。雇用を生むということもクリエイティブであるし、他に類をみない里山をつくっていくのも、里山もただの山ではなく人がいて農業があって、林業があって成り立っている里山だというイメージの里山であれば、「クリエイティブな里山」というワードは経済面を含めていいワードなのかなと思った。

10年後、20年後の飯山像を考える中では、大事にした方がいい言葉だと思う。具体的にどうするかは、この目標案の下のところできくことになるかなと思う。どうしてもイメージとしてはそこがたくさん出るが、イメージ像を統一できればいいのかなあと思う。

(本間会長)

ここまででいろんな話があったが、商工業や経済、観光の話で「八つの美しい季節のあるクリエイティブな里山で 一人ひとりが夢をかなえる いいやま」に加えたいものがあるか。海外の資本は大事だが、クリエイティブな酒屋も維持するためには守っていかないといけない部分もあるので、「守る」というのもキーワードになってくる。そうすると、基本目標の中の「里山の維持」と言うと堅いイメージがある。守るための施策だったり、条例だったりをつくっていかないといけないので、市でいろいろな案を出してもらえと思う。そのキーワードを全部入れるのは難しいが、イメージしやすいもの、クリエイティブにも行くし、かといってリノベーションは破壊だというのが壊して終わりではない。どんどんクリエイティブなことはしていくが、きちんと大事なところは守るし維持していく。本当に愛すべき里山として残していく。そんなことも含めていけると条例がつくりやすく、提案しやすくなるかと思う。

委員が「きれいな言葉を並べるのは…」と発言していたのでいろいろ考えるが、こういう目標はどうしてもきれいになってしまう。例えば、北海道とかの「試される大地」とか、そういうことなのかなあと思う。

(委員)

汚い言葉ということではないが、誰が読んでもサラッと読み流すような、一見きれいな言葉だが、よくよく読めば何を言っているのかさっぱりわからないというのが多いというイメージがある。そこは読んでいて立ち止まって「どういうこと？」と考えるくらいインパクトのある言い回しがいいかな、という意味での「あまりきれいな言葉過ぎない」である。

(本間会長)

「きれいごとではダメ」ということかと思った。

(委員)

もちろんきれいごとではダメ。

(本間会長)

サラッと読めるものではなく、ありきたりな他の地域にあるものではなく、ということか。

(委員)

これはお年寄りも市の方みんなで共有することなのか。

(本間会長)

共有する。

(委員)

「クリエイティブ」とか入っていてもいいのか。

(委員)

ひっかかるとしたら、やっぱりそのキーワードかもしれない。

(委員)

「クリエイティブ」はとてもいいキーワードだと思うが。

(委員)

「クリエイティブって何？」と言ってくればいいが、それで「NO」と言われると困ってしまう。

(本間会長)

市役所の皆さんの感覚で「クリエイティブ」が入っているのはどう思うか。対市民で。

(委員)

例えば「循環型な里山」とか。いろんなことがグルグル回っている。

お年寄りにわかりやすくするなら、「クリエイティブ」の方がいいけど、わからなければ。

(委員)

10 年後のお年寄りとは、「クリエイティブ」くらいわかるかとも思いたい。お年寄りのイメージもこれからどんどん変わっていくと思うし、一人ひとりが夢をかなえるなら、なりたいお年寄り像も入ってくるのかなと思う。

(本間会長)

市で市民の皆さんに伝える場合、言葉尻でちょっと気にする方もいる。「クリエイティブ」は受け入れもらえるかどうか。市で働いているみなさんの感覚として、印象としてどうか。

(委員)

この会議で決まっているから「クリエイティブ」が入っていてもいなくていいのではないかな。私達が決めた言葉なので問題ないのではないかな。

(委員)

何か「開かれた」みたいな言葉を入れた方がいいのではないかなと思う。「世界に開かれた」的な。そうすると若者が「いいな」と思うかもしれないので入れられないかな。「里山」は開かれたイメージがなく、どちらかと言うと「田舎」のイメージがある。逆に「世界に開かれた里山」となると「どういうこと？」となる。

(委員)

「挑戦する」とか「新しいことに挑む」「後押ししてほしい」という意見がいくつかあったが、そこも「クリエイティブ」が含まれているイメージがあった。「世界に開かれた里山」は何かバシッとくる。

(委員)

イメージ的に「世界に開かれた里山」と。駅前におじいちゃん・おばあちゃんがいた時にそこを外国人が歩いていて、ハイタッチしながら話しているようなイメージになると、「world wide な飯山」になると結構若者も「すごいよさそうだね」となるし。

(委員)

「世界」という言葉はすごく響く。先ほど委員から発言があった「ここは世界一素晴らしい」が、私は衝撃を受けた。そこまでの自覚・自信がなかった。そういう目線で言った時に「世界に開かれた」というのは、我々に対しても世界に対しても「誇れよ市民」みたいな。「自分達は誇れる」という意味で、自分達と外に向けた言葉で、ダブルの意味がありそうな気がして衝撃があった。

(委員)

最初の「八つの季節」というのを入れたいが、取って、「世界に開かれた里山で 一人ひとりが夢をかなえる いいやま」とすればまとまる。「クリエイティブ」ではなくて「世界に開かれた飯山」そこに結構いろいろはまってくると思う。

(委員)

それがすごく個人的にバチっとはまっていていいなと思っていたので、「八つの季節がある」の「ある」となると、自然を守りながらという大前提での里山であると言えるのかなと思う。個人的には、第4案でもう完成した気がする。

(本間会長)

改めて委員の意見もわかりやすくていいと思うが、シンプルになり過ぎてすんなり読めてしまう。気になるのは「八つの季節」で、入っていた方がよいかなと思う。長いのは問題ないか。文字数とかは。よければいいが。

(事務局)

意見もだいぶ出してもらったので、前回もたくさんいただいた意見の中でこちらである程度キーワードを捉えてつくった部分もあるが、今回もだいぶ意見が一つのいい方向にまとまってきているので、そのまとまっているキーワードを捉えて、事務局サイドと次の会議に向けてまた提案させてもらう形にしてもらえたらと思う。

(本間会長)

今の案でいいかと思うが、皆さんはいいか。

(委員)

本間会長が発言した「試される大地」が短くてインパクトがある。

(委員)

「世界一クリエイティブな里山」にしよう。

(本間会長)

また何案か挙げて諮っていきたい。

今回出た意見をまとめてもらおうと思う。

(事務局)

今日は資料1にある案を提示し、第4案についての意見もたくさんいただいた。

案1に対しては明石市の事例で「子育て世帯への手厚い支援」などありながら、一方では「出産を選択できれば」という意見もあった。

案2については、「SDGs」や自然について「美しい」「誇りになる」「観光資源」になるとか、その良さというのがいいなということであった。

案3については、「一人ひとり」「風通し」が誰にとってもいい言葉だと思うし、「プラスの田舎のイメージ」があるのかなと思う。

その後、第4案として案1から案3を包括し、案1から案3が基本目標になるくらいではないか、ということで意見をまとめた。短くてインパクトのあるものであり、「試される大地」などは、インパクトがある。いろいろ考える中で、「何を本気で目指すのか」ということが挙がった。新幹線の駅もある、これから外国人も入ってくる。日本一、さらに世界一をめざすところはある。「飯山はどこでもドア」であり、都市とも外国ともつながるポテンシャルがある。

観光でのポテンシャルもある。信越トレイルがきっかけとしてあるので、eバイクとして1人1台配ってもいいくらい。

経済についてもこれからホテルが建つので、そこに賑わいがでてくる見込みがあるし、外国の投資もあっていい、これからでてくるだろうというところにポテンシャルが感じられる。

これらを含めて考えていく中で、第4の案の一つとして「八つの美しい季節のあるクリエイティブな里山で 一人ひとりが夢をかなえる いいやま」が挙がった。「八つの美しい季節」という自然を守るという部分の意思、それから「クリエイティブな里山」の今までのイメージの里山ではない新しい里山でいたいということ。一人ひとりが暮らしを楽しめるという意味で「夢をかなえる」ことができるという思いが入っている。それをどこまでコンパクトに、よりインパクトのある表現にしていくかで「世界に開かれた」ということかもしれないし、「世界一クリエイティブな」という部分かもしれない。これらを次回までに整理し直して提示させていただきたい。

(本間会長)

長時間になって申し訳ないが、協議事項はこれにて終了する。

司会を事務局に返す。

(事務局)

今日も貴重な意見をいただき、次回には事務局としてまとめたものを何かしら提案できればと思っているので、よろしくお願いします。

5 今後のスケジュール

(事務局)

今回は、来月7月 26 日か 27 日の午後の予定とする。また通知する。

6 その他

(事務局)

今日、いろいろ意見を出してもらった。次回の会議まではまだ1か月くらいある。今日言えなかったことや、もっとこうした方がいいのではということがあれば、事務局へメールしてもらえればと思う。ぜひご意見をお待ちしている。

本日も長時間に渡り、ありがとうございました。また次回第4回、7月 26 日午後に企画したいと思うので、大変お忙しいとは思いますが、都合つけていただき出席願いたい。

これで第3回の市民アイデア会議を終了する。本日はありがとうございました。

7 閉会(17:30)